

3、なごりのみ言 さやかにして み名よぶ声を 慕いきまし のりのつどいの  
み座ごとには み影をうつし臨みたもう

4、もしそれ知識の 教えなくば とわの闇路に まよいぬらん

みこころめしきみによりて いましほとけの 慈悲にあいぬ

「報恩講の歌」



11月10日無量寿会報恩講法要をおつとめさせていただきました。

井関会長はあいさつの中で、ご門主のインタビューが新聞記事に掲載されたことを紹介され、著書「ありのままに ひたむきに」を読まれた中で「ご門主に就任される前東京の築地本願寺の副住職として若い方々との交流や、被災地にも何度か足を運ばれ、非常に行動派のご門主様であり、この本は活字離れの私にも読みやすく、優しさがにじみ出る言葉で身近に感じました」とごあいさついただきました。

会員皆さんと「お正信偈」のお勤めの後、各務原よりご出講を

いただいた専琳寺 横山大悟師のユーモアと親しみやすい語りのご法話を

ご聴聞させていただきました。「お医者に行くとかルテがあるように、お寺にも

門徒さん用カルテがいるのではないかと思います、また、仏さまにはちゃんと

カルテが用意されてあります。実は『浄土三部経』がそのカルテなのです。『仏説無量寿経』とは、薬の役目、

『仏説観無量寿経』は私たちの病が書かれているのです。そして、『阿弥陀経』お医者さんの診察なのです。

この三部経をギュッと凝縮されたのが「ナンマンダブツ」で、我がいのちのもとではたらきつづけて

治療してくださっております。それを親鸞さまは「お正信偈」に、如来さまのお心だと顕されました。

私たちは、いつもおつとめを通じて、我がいのちのすくいに出席させていただいているのです。

仏さまにお参りすることは、人としてとてもあわせなことであり、尊いことなのです」とお話しされました。



日曜学校、子ども会では、「らいはいのうた」を、  
れなちゃん、ゆなちゃんが声調しました。そして、  
報恩講法要の折に拝読する「御伝鈔」の読み合せ  
をしました。「下巻第6段」の聖人がご往生される  
場面です。その後、ゲームをしたり、今年開催された



夏の集いや、サマキャンなどの  
楽しかった思い出の写真を張り  
付けました。みんなで伊勢うどん  
をおいしくいただきました。



11月26日暖かなお天気にも恵まれ、上組の皆様に「すすはらい」  
をしていただきました。「重誓偈」をおつとめして、早速お掃除開始  
です。普段掃除ができない大間の梁や天上などのほこりを払い、  
拭き掃除をしていきます。椅子や畳もきれいに拭いて頂きました。  
寒さも増す頃となり、いよいよストーブも出番です。カーペットも  
叩かれました。また、縁や境内のお掃除までも徹底的に、美しく  
清掃をいただきました。みなさま、ありがとうございました。





11月29日法要をおつとめするに当たりおみがき、

もち米かし、内陣の清掃をいただきました。

おみがきは、新人さんもベテランさんも和気あいあいとし  
ごしごしと手を動かし、口を動かし、賑やかにしっかりと

とてもキレイに仏具を磨いていただきました。井関さん

には内陣のお手伝いです。天井や框まで丁寧に  
煤や埃を払っていただき、お浄土のご荘厳が整いました。



TVの芸能関係を観ていると最近富に、何々の大御所を親に持つ新人の何々さん、ですよと紹介されることが多く観られます。

私には、親の七光りによって出て来た二世、三世に見えてしまします。その新人さんには、

当然にその道で大成される資質が備わって居ると思います

が、それにしても、その数が多いのには驚きです。特に、芸能人、政治家の方々に多く、私には

「何だ親の七光りか」と思わず呟いています。どこか羨ましい

思いが、私の心に有り、そのような言葉になっていきます。

ところで私には、「親の七光り」として誇れるものは何も有りません。

毎年なのですが「今年こそは」と心に誓うのですが、私には母から頂いた慈しみの心、

父から頂いたお人好しの心があるだけです。実社会にあって、

娘、息子には、何の助けにもならなく悔いります。今年も年の瀬を迎えてしまいました。でも、

もし私にその七光りが有れば、沢山の人々に照らし分けたいと

つくづく思う次第です。

北海道 大島義勝さん

## 親の七光り

最近TVを観ていて気に成ることがある

デビューする新人を大物歌手を父に持つ

大物俳優を母に持つ、との紹介が眼に着く

勿論、その実力は具わって居ると思うが

私には、親の七光りに見えてならない

息子・娘達に申し訳ないが、私には無い

大物・・・を親に持つは、私には到底無縁

大物・・・をの文字が今日もTVから流れる

残念乍、私は何の光りも持たない放たない

日々を細々と必死に生きる、唯の人が私

私が社会に出た時のことを今思い返すと

親の七光りで事を為し得たことは殆ど無い

でも、社会にて健康な体と心で活躍出来た

他人を思いやる母の心、お人良しの父の心

頂いた七光り、それは何物にも代えがたい

何の七光りも身に付けられず瞬間の一年

唯々、手を合わせて南無阿弥陀仏の心頂く

父母の心を受け継ぐ幸福に他に何も求めず

こぼれ光の中に生きる幸福、それが一番か

来年こそはと密かに心に秘める七光りかな

灯から灯へ 移すローソク報恩講

法悦の 夜座の戻りや 虫浄土

枯れてなお 夕日に映える 尾花かな

十八の娘に 匂ふ 照葉かな

真つ二つに 白菜割りて 一夜漬け

一本づつ 冬木の眠る 野の起伏

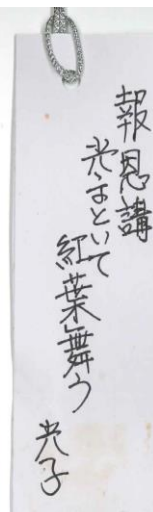
病む友に 言葉えらびて 冬リング

落合登代子



報恩講

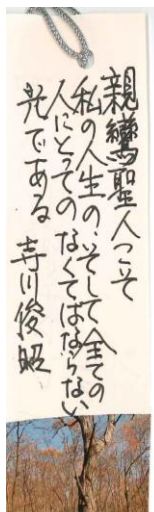
光まといひて 紅葉舞う 光子



大島

光子

さん



朝倉市

森田

瑛子

さん



冬至が近づいてくる中、日の出が遅く日の暮れが早いのであつという間に一日過ぎていきます。段々冷たく寒くなってきました。風邪など気をつけて、年末年始、お大事にて、お念仏ご相續、仏恩報謝を。